



～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

4月：卯月（うづき）

春がやってきました。桜や色々な花が咲き、樹木も芽吹いています。新入生や進級した子ども達も新しい生活ですね。特に新入園児にとっては、初めての集団生活となります。様々な出会いがあるように、様々な風邪や感染症にもたくさん遭遇します。感染症に罹ってしまっても、一つ一つ頑張って乗り越えて免疫力をつけていきましょう！

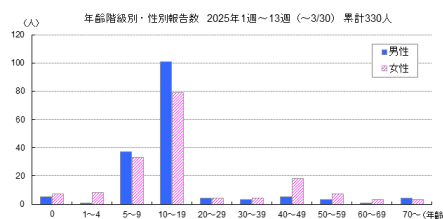
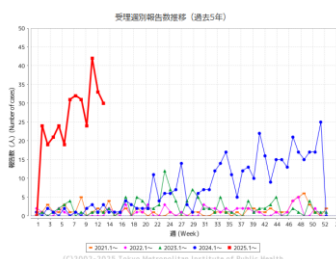
【感染症だより】

～感染性胃腸炎について～

この冬は特に感染性胃腸炎が多く流行しました。胃腸炎の症状は主に嘔吐・下痢です。胃腸炎のほとんどはウイルス性で、とても簡単に感染拡大します。家族内で一人感染者が出ると、数日以内に家族全員がうつってしまうことがあります。特に体重の小さい乳児では、嘔吐や下痢が頻回になると脱水症を起こします。脱水症を起こさないために、乳児では体重1kg当り1日で100mlくらいの水分補給が必要です（体重10kgでは1日1リットル位）。しかし、下痢で体外に出してしまう水分を考えると、それ以上必要な事もあります。水分補給には、経口補水液を与えるのが良いですが、嫌がって飲めないときがあるかもしれません。スポイトやスプーン、吸い飲みなどを使って、何かしらの水分、糖分、塩分をなんとかして一口ずつでもお口に入れてあげましょう。乳児では下痢が長期化することがしばしばあります。感染性胃腸炎に伴って一時的に乳糖不耐症を起こしてしまうことによります。その際は、乳糖が入っていないミルク（ノンラクトB、ボンラクトB）などを与えると良いでしょう。

～百日咳について～

昨年後半から百日咳が増えています。東京都感染症情報センターのデータでも、今年に入ってさらに報告数が増加しています（下左の図、赤ラインが今年、青ラインが昨年です）。年齢別で見ますと、5-9歳、10-19歳が多くなっています（下右の図）。予防接種をしているのに何故？と思われる方がいるかもしれませんが、0-1歳で受けた4種混合や5種混合接種は、5年くらい経つと抗体価が下がってきます。このため、欧米では就学前や小学校高学年での追加接種があります（合計6回の接種）。我が国では5回目、6回目は定期接種としてではなく、任意接種となっています（DPT）。海外では、定期接種未接種の早期乳児の予防のために妊娠後期に接種を考慮する国が増えています。百日咳の潜伏期は1-3週間ほどです。症状は、初期は鼻水と咳で風邪と区別が付きません。発熱はなく、短く乾いた咳が続きます。1-2週間すると発作性、連続性の咳になってきます。抗生物質内服で治療しますが、咳は2-3か月続きます。



表：3月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎(加4アデノ3含む)	115
2	溶連菌	90
3	インフルエンザA	16
4	リンゴ病(伝染性紅斑)	14
5	インフルエンザB	10
6	RSウイルス	8
7	新型コロナウイルス	5
8	とびひ(伝染性膿痂疹)	3
9	咽頭アデノウイルス	1
9	おたふくかぜ	1
9	手足口病	1



～あんずからのお願い～

★空き状況はWebで

ホームページから確認出来ます。
ご予約は必ずお電話でお願い致します。
👉 空き状況はこちらから



★キャンセルをされる場合

留守番電話でも構いませんので**当日8:30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入るようご協力をお願い致します。

★ご予約の際の注意事項

診察を受けた**病名**によって、お部屋割りをしています。なるべく同じ病気のお子様と同じお部屋にすることで、子ども同士の伝染を防ぎます。また、感染症の接触歴、流行状況等をお聞きしております。ご協力をお願い致します。

★保険資格確認について

入室後必要に応じて医師が診察をします。健康保険証又は資格確認書をお持ちください。どちらもお持ちでない場合、マイナ保険証の方はスマホでマイナポータルのページを確認させていただきます。

